

垂水会に地域活動賞

福田川などで清掃13年

町の清掃奉仕13年間続けているシルバーカレッジ垂水会（秋山雄一代表）に11月11日、神戸市から平成22年度の「地域活動賞」が贈られました。同会は平成9年に結成され、会員は205人。親睦と共にボランティアを活動の柱に掲げ、福田川やJR舞子駅周辺の清掃、舞子公園の観光ガイド、垂水養護学校への支援など幅広い活動を続けてきました。今回の表彰は、こうした永年の地域奉仕活動の功績が認められたもので、相楽会館で行われた表彰式には秋山代表



が出席しました。「先輩たちが続けてきた努力が認められて嬉しい。これからも町づくりのお手伝いができれば」と話しています。（写真は福田川清掃に取り組み垂水会員）

投稿

老人会の在り方

私は現在、北区広陵町という町の老人会の会長を務めていますが、「情報ぎやらりー」10月号のコラム つぶやき の「老人会に思う」を読み愕然としました。なんと老人会に対する偏見というか、余りにも皮相的な見解に憤慨する以前に情けない思いを禁じ得ませんでした。

ご指摘のとおり、老人会も社会の一員として社会に貢献する活動をするのは当然の事であり、私達の老人会も、小学生の登下校の見守り、地域の公園清掃、老人ホームの慰問等、種々の社会活動を行っています。その一方で年々



進むメンバーの高齢化に悩んでもいます。因みに私達の老人会は168名という大所帯ですが、その平均年齢は、女性79歳、男性78歳と超高齢者の団体であります。元気な老人会の活動に参加される会員も多数いる反面、配偶者を亡くし一人暮らしで、病弱な会員も少なくありません。

このような会員にとって、最も必要な事は心の張りを失わず、身体を少しでも動かして戸外へ出での仲間との交流であります。老人会はカラオケ、グラウンドゴルフ、輪投げ、囲碁等、その人の参加できる集まりや、機会を作り、心身ともに元気よく、孤独にならないような取り組みに努力しています。

社会奉仕に精を出せる会員、自立のためにカラオケやグラウンドゴルフに参加しようと努力する会員、この人達を両立させてこそ地域が必要とする老人会

皆木さん、瑞宝双光章を受章

東灘区会員・皆木喜一さん（美工9期）は11月12日、皇居豊明殿で天皇陛下に拝謁し瑞宝双光章を受章されました。神戸市職員として40年間、災害防除のための危険業務に携わってきた功績が認められたものです。これまで神戸で発生した幾多の災害に、身を挺して取り組んでこられたということです。現在は、絵画教室やシルバーカレッジの絵画クラブなどで美術を教え活躍されています。皆木さんは「市民の安全を守るという仕事が評価されて嬉しい。今後はシルバー世代に、安全な暮らし方のアドバイスをしたい」と話しています。（東灘区会 ・長谷

と言えるでしょう。

若者を指導したり、日本の将来を考える事も大切ではありますが、それ以前に他人に迷惑をかけずに自分の事は自分でできるお年寄りを一人でもふやす身近な活動こそが、老人会にとっては、より必要だと考えています。これこそがSCで学んだ「共助」の実践ではないでしょうか。（福祉1期 塩田義人）

「あーと14」が作品展

14期生の絵画同好会「あーと14」が、村の本館2Fギャラリーで第1回作品展（12月13日～19日）を開きました。19人が油彩・水彩など33点と陶芸作品を展示。友人や絵画ファンが連日訪れ、作品を見ながら談笑していました。同好会は22年春、結成されたばかり。メンバーが8か月かけて描きためた作品を持ち寄ったということです。